

～岩手のホームスパンを未来につなげる～

平成28年地域政策研究センター（地域提案型・前期）採択課題

課題名：岩手におけるホームスパン文化を継承するための方策に関する研究

研究代表者：盛岡短期大学部 教授 菊池直子

課題提案者：有限責任事業組合 まちの編集室

研究メンバー：佐藤恭子（盛岡短期大学部）、まちの編集室（滝沢市）

技術キーワード：ホームスパン、岩手の文化、ワークショップ

▼研究の概要（背景・目標）

岩手のホームスパン（手紡ぎ、手織りの毛織物）は、大正期に農家の副業として普及し、昭和期に民芸運動との結びつきによって美的価値が高められ、敗戦後の復興とともに地場産業にまで発展した。現在も受け継がれるホームスパンであるが、地元でも認知度が低下し、特に若い世代は知らない人の方が多く状況にある。ホームスパン文化を次世代に継承するためには、若い世代へのアプローチ等が必要と考え、その方策を探ることを目的とした。

▼研究の内容（方法・経過）

1. **ワークショップ** 目的：若者が工房での体験をとおしてホームスパンを理解し、「衣食住で考える私のほしいホームスパン」を提案する
2016年9月
体験者：18～36歳の17名（9班に組分け）
体験受入れ工房：盛岡市と近郊の6工房
2. **「ホームスパンmeeting」** 目的：産学連携で岩手のホームスパンを考える（一般公開）
2016年12月
第一部：体験者9班によるプレゼンテーション
第二部：作家・職人をパネリストとするパネルディスカッション
3. **工房アンケート** 目的：研究方法を総括し、工房の意向を把握する
2017年3月
質問：①ワークショップと「ホームスパンmeeting」の振り返り
②10～20年後の工房について
③工房間や作家・職人のよこのつながりについて

▼研究の成果（結論・考察）

1. **ワークショップ**：若者にとってのホームスパンは、小物として用いる素材、特別な意味を持たせる素材
2. **「ホームスパンmeeting」**：ホームスパンは触れたり身につけたりして価値がわかるもの。若い世代に触れる機会を伝えることが重要。しかし、工房は広報活動の余力を持ちえない現状にあり、文化の継承には行政による広報活動の支援が必要
3. **工房アンケート**：①ワークショップの有効性を確認
②技術継承を工房の後継者や教室の生徒に期待
③目的を明確にした交流機会のニーズを認識



図1 ワークショップ



図2 ホームスパンmeeting

体験者 (9班)	若者が提案する「衣食住で考える私のほしいホームスパン」				
A	親から子へのプレゼント	曲げわっぱの弁当包み	ブックカバー	ガウン	
B	親から子へのプレゼント	誕生日のおくみ兼授乳ケープ	テーマ、コンセプトを決めた販売		
C	ポーチ	ティッシュカバー	コースター	マフラー	
D	ランチョンマット	コースター	ポケット付きストール	北欧キズスタイルのような柄物	
E	ポーチ	携帯ケース	アクセサリ	自動車内装品	ペット衣服
F	ペンダントライトのセード	ファブリックパネル			
G	スカート	つけ襟	携帯ケース	小物	アクセサリ
	ランチョンマット	コースター	クッションカバー	ブックカバー	カーテン
H	パソコンケース	携帯ケース	めがねケース	コインケース	衣服のポケット部分
	ポーチ	つけ襟	マフラー受注会＋パーソナルカラー診断	出産、入学祝い	
I	キーケース	マフラー	ストール	ワンピース	玄関マット
		小物類	販売企画品		

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 本研究の成果より、若い世代がホームスパンに触れることができる機会、目的を明確にした工房間の交流機会が必要であることが認められた。

2. 今後は、工房の意向を踏まえながら、行政による広報活動のバックアップが得られるような働きかけに展開したい。

<謝辞> 調査実施にあたり、ご協力いただいた蟻川工房、中村工房、みちのくあかね会、植田紀子織物工房の皆様、田中祐子氏、森由美子氏、舞良雅子氏に深く感謝申し上げます。